



関節リウマチの治療

—治療の最前線—

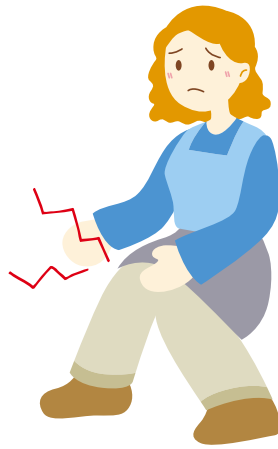
かつて「不治の病」といわれた関節リウマチはここ10年の治療薬の飛躍的な進歩により、治癒に近い状態が望めるようになりました。その背景には、関節リウマチの新しい検査法が導入され、早期の診断が可能になったことと、それに基づいた早期からの厳密な治療が可能になったことがあります。

すみだクリニック 隅田 潤 院長

関節リウマチとは

関節リウマチは、免疫の異常を基とした全身の病気です。病気の中心は関節にあり、最初に関節を包む膜（滑膜）に炎症が起き、関節に腫れと痛みが生じます。この炎症が進行すると軟骨・骨の破壊がおきて関節が変形してしまいます。

関節リウマチは、年代・男女を問わず発症しますが、約8割は女性で、日本では、患者さんは60万人以上いると言われています。有名な画家のルノワールも関節リウマチを患っていたとのこと。



関節リウマチの早期発見と診断

関節リウマチによる関節の腫れ方にはいくつかの特徴があります。

- ・多くの関節が腫れる
- ・左右対称性に腫れやすい
- ・手足の指などの小さな関節が腫れやすい
- ・腫れた部分が軟らかい（この軟らかさは特に特徴的で、ピロイドを触った感じ）

関節以外の症状

- ・貧血、間質性肺炎、目や口の乾燥（シェーグレン症候群）など関節以外の症状が起こることがあります。

治療薬の進歩

かつて関節リウマチの治療の中心は痛み止

めだけという時代がありました。その後、副腎皮質ホルモン剤が使われるようになって、関節の痛みや腫れに効果があることが分かりました。しかし関節リウマチそのものを治すことはできませんでした。

その後の治療の主流は抗リウマチ薬となりました。なかでも1988年にアメリカで承認されたメトトレキサートは、治療に非常に有効で日本では1998年に承認され、現在も中心的な治療薬です。さらにその後、生物学的製剤（サイトカイン阻害薬、注射薬）が開発され関節リウマチ治療は飛躍的な進歩を遂げつつあります。

治療戦略の変革

①早期治療の大切さ

関節リウマチを発症してから関節が壊れるまでの早期に治療を開始して、関節破壊を防ぎ、QOLの低下を防ぎます。

最近治療のよいタイミングという意味で「window of opportunity」という言葉が使われます。

②厳密な治療の大切さ

現在、関節リウマチの治療には、たくさんの選択肢があります。患者さん一人一人にオーダーメードな治療目標を設定し、それに向けて厳密な治療を進めていくことが可能になりました。もちろん薬の副作用チェックも大切です。これが「tight control」と呼ばれるものです。

こういう治療で、関節破壊を防ぎ日常生活が自立し、さらには仕事ができる状態に持つていくことが目標となります。

③関節リウマチの治療の中心は、薬物療法です。しかし、薬物療法を受けても、「痛みが強い」「日常生活に支障がある」「関節の変形

が高度である」などの場合には手術が行われることがあります。

関節リウマチかなと思ったら

①かかりつけ医に相談をしましょう。

②専門医に紹介をされたら、まずレントゲン、血液・尿検査などが行われます。

③関節リウマチと診断されたら、前述の早期治療、治療目標に沿った厳密な治療を開始します。

④通院は最初のうちは2週間に一度くらいが必要となります。落ち着けば1〜2カ月毎の通院となります。いずれにしても、早めにご相談ください。

